

岡山県感染症週報 2023年第46週＜確定版＞（11月13日～11月19日）

12月1日は『世界エイズデー』です

岡山県では『世界エイズデー』の関連行事として、エイズに関する正しい知識の啓発活動および保健所・支所で夜間・休日などの HIV 抗体検査を実施します。詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。



レッドリボン
エイズに対する理解と
支援の象徴

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

岡山県は『食中毒(ノロウイルス)注意報』発令中です

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です

◆2023年 第46週（11/13～11/19）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第44週	5類感染症	梅毒 2名（40代 男 2名）
第45週	5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1名（30代 男） 後天性免疫不全症候群 1名（30代 男） 侵襲性肺炎球菌感染症 1名（70代 男） 梅毒 8名（20代 男 2名・女 2名、30代 男 1名、50代 男 2名、70代 男 1名）
第46週	2類感染症	結核 6名（60代 女 1名、70代 男 1名、80代 男 1名、90代 男 1名・女 2名）
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 3名（O157：小学生 男 1名、40代 女 1名、O血清群不明：40代 女 1名）
	5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1名（60代 女） 後天性免疫不全症候群 1名（20代 女） 梅毒 3名（20代 男 1名・女 1名、40代 男 1名）

効果的な場面での
マスク着用！



© 岡山県「ももっち」

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ/COVID-19 定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で 130 名（定点あたり 1.55 人）の報告がありました。
- インフルエンザの報告が、過去 10 年間の同時期と比較して多くなっています。
- 咽頭結膜熱の報告が、過去 10 年間の同時期と比較して多くなっています。詳しくは下記をご覧ください。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が多くなっています。

1. [新型コロナウイルス感染症（COVID-19）](#)は、県全体で 130 名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり 1.62 → 1.55 人）。詳しくは、「[★新型コロナウイルス感染症（COVID-19）情報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ『[新型コロナウイルス感染症（COVID-19）情報](#)』をご覧ください。
2. [インフルエンザ](#)は、県全体で 2,055 名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり 19.14 → 24.46 人）。岡山県は「[インフルエンザ注意報](#)」を発令し、広く注意を呼びかけています。詳しくは、「[インフルエンザ週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2023/24年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ注意報」発令中！](#)』をご覧ください。
3. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、2023年第46週に3名の報告があり、2023年の累計報告数は99名となり、2022年の年間報告数：66名を超えています。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中！](#)』をご覧ください。
4. [梅毒](#)は、2023年第46週に3名の報告があり、2023年の累計報告数は257名となり、1999年の感染症法施行以降で最多であった2022年の年間報告数：197名を超えています。2023年の全国の発生状況は、第45週までの累計報告数が12,965名（2023年11月15日時点）であり、最多であった2022年（年間報告数：13,221名（2023年10月28日時点））の同時期：11,306名を上回っています。今年は全国、県内共に、報告数が多く、注意が必要

です。また、全国の先天梅毒が第45週までの累計報告数で34名となり、1999年以降で最大の年間報告数となっています。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[梅毒について](#)』をご覧ください。

5. **咽頭結膜熱**は、県全体で165名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり2.87 → 3.06人）。過去10年間の同時期と比較して最も多く、全国も過去5年間の同時期と比較してかなり多くなっています。岡山県は、定点あたり報告数が、国が示す警報基準値「3」を上回ったことから、注意喚起を行っています。この感染症は、通常、6月頃から徐々に流行しはじめ、7～8月にピークとなりますが、今年は通常と異なる時期に増えています。岡山県の注意喚起、病気の特徴、予防法は次をご覧ください。

→ [『咽頭結膜熱（プール熱）患者が増えています（注意喚起）』](#)（岡山県健康推進課）

[『咽頭結膜熱とは』](#)（国立感染症研究所）、[『わかりやすい感染症Q&A』](#)（一般向け）（厚生労働省）

6. **感染性胃腸炎**は、県全体で238名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり3.80 → 4.41人）。地域別では、岡山市（7.00人）、備北地域（6.25人）、備前地域（4.50人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。岡山県は11月9日に『**食中毒(ノロウイルス)注意報**』を発令し、食中毒予防を呼びかけています。冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底、食品の十分な加熱、おう吐物・下痢便の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めましょう。県内の発生状況など、詳しくは岡山県感染症情報センターホームページ『[2023/24年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は別掲載）

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	▲	★★★★★	RSウイルス感染症	▲	★
咽頭結膜熱	▲	★★★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▲	★★
感染性胃腸炎	▲	★★	水痘	▲	★
手足口病	▲	★	伝染性紅斑	▲	★
突発性発疹	▲	★	ヘルパンギーナ	▲	★
流行性耳下腺炎	▲	★	急性出血性結膜炎	▲	
流行性角結膜炎	▲	★	細菌性髄膜炎	▲	
無菌性髄膜炎	▲		マイコプラズマ肺炎	▲	★
クラミジア肺炎	▲		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	▲	

【記号の説明】 前週からの推移： ▲：大幅な増加 ▲：増加 ▲：ほぼ増減なし ▲：減少 ▼：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減
 発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

＊子どもの予防接種を確実に！＊



厚生労働省リーフレットより

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行による影響から、子どもの定期予防接種率の低下が懸念されています。

接種期間内の方は、早めに予防接種を済ませましょう。

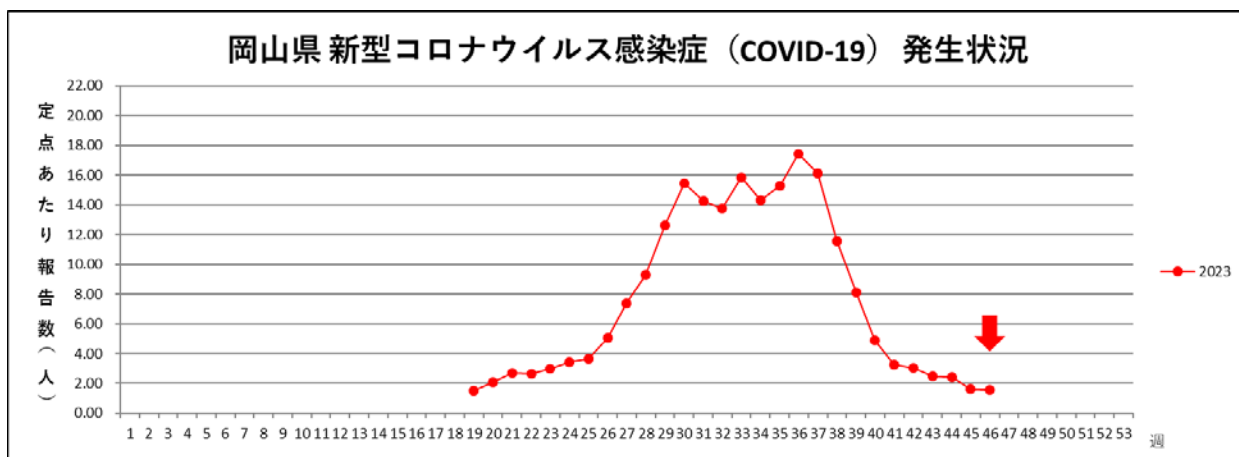
予防接種に関する疑問点などは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

[遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健診（厚生労働省）](#)
[予防接種スケジュール（国立感染症研究所）](#)

☆新型コロナウイルス感染症（COVID-19）情報

岡山県の流行状況（第46週（11/13～11/19））

○新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で130名（定点あたり1.55人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。



※ 2023年は定点把握対象へ移行した第19週から表示しています。

※ 全数把握時のデータは[こちら](#)

※ 2023年5月7日（2023年第18週）までの全数把握の患者数をもとに、2023年5月8日以降の定点医療機関からの報告患者数を抽出して集計した患者数の推移（参考値）はこちらをご覧ください。→ [全国](#)（厚生労働省HP）、[岡山県](#)（新型コロナウイルス感染症対策室HP）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で130名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり1.62 → 1.55人）。地域別では、備北地域（2.83人）、真庭地域（2.67人）、備中地域（1.92人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年代別では、10～30代および60代で前週から減少しました。

基本的な感染防止策（効果的な場面でのマスク着用、手洗い等の手指衛生、換気、3密（密閉・密集・密接）の回避、健康的な日常生活、ワクチン接種、体調不良時の備え）に留意し、自主的な判断により実施しましょう。

●新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とは

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界中で感染が拡大している呼吸器症状などを呈する感染症です。咳やくしゃみ、会話などの際に排出される、ウイルスを含んだ飛沫・エアロゾル（飛沫より更に小さな水分を含んだ状態の粒子）を吸入することで感染すると考えられます。通常は感染者に近い距離（1m以内）で感染しますが、エアロゾルは1mを超えて空気中に留まりうることから、換気が不十分な環境では、感染が拡大するリスクがあります。

●症状

日本で流行の主流となっているオミクロン株は、潜伏期間が2～3日と短く、また、発症前からウイルスを排出し、感染源となることが分かっています。上気道で増殖しやすい特性から、従来株（デルタ株等）に比べ、鼻汁・頭痛・倦怠感・咽頭痛などの風邪様症状の頻度が増加している一方で、嗅覚・味覚障害の頻度の減少が報告されています。しかしながら、肺炎が進展し、重症化する例も少なからず認められます。特に高齢者や基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など）のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。また、妊婦では妊娠後半期（21週以降）などに重症化する割合が高いことが分かっていますが、ワクチン接種が重症化を予防する可能性があると考えられています（[日本におけるCOVID-19妊婦の現状（日本産科婦人科学会、2022年6月7日付報告）](#)）。

なお、罹患後症状（いわゆる後遺症）については、以下をご覧ください。

- ・ [罹患後症状のマネジメント・第3.0版（2023年10月20日発行）](#)
- ・ [『新型コロナウイルス感染症罹患後も続く症状（後遺症）にお悩みの方へ』（岡山県ホームページ）](#)

●発生動向の把握方法について

全ての患者を把握する『全数』把握の方法から、2023年5月8日（第19週）以降は、指定した医療機関（岡山県の定点医療機関数：84（内訳：小児科定点54、内科定点30））において1週間に診断した患者数を把握する『定点』把握の方法へ変更となりました。

基本的な感染症対策！
ワクチン接種も大切！

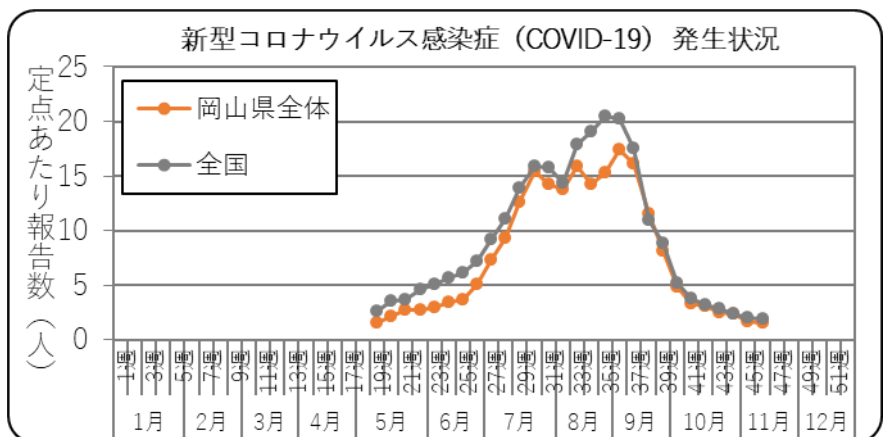
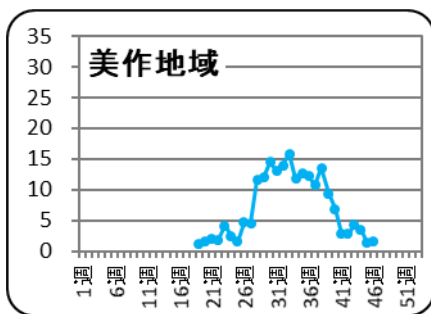
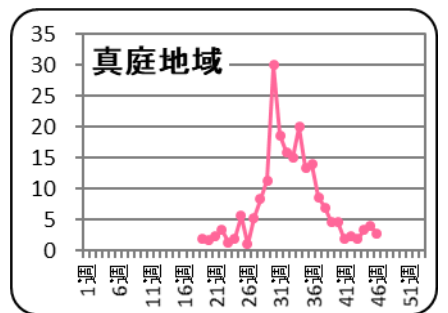
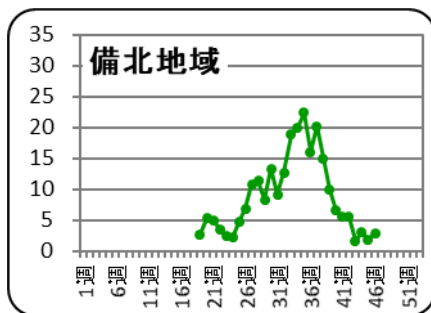
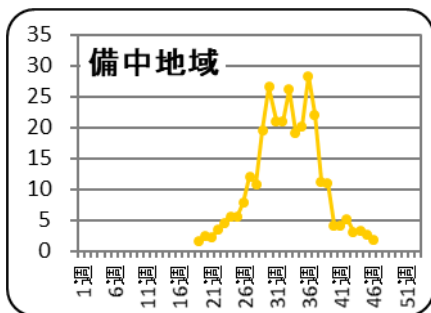
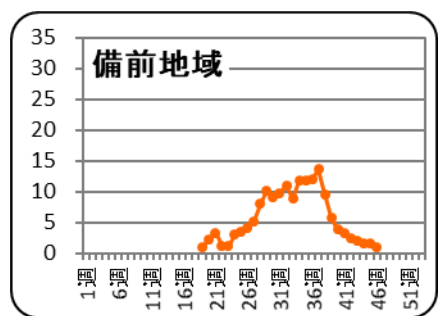
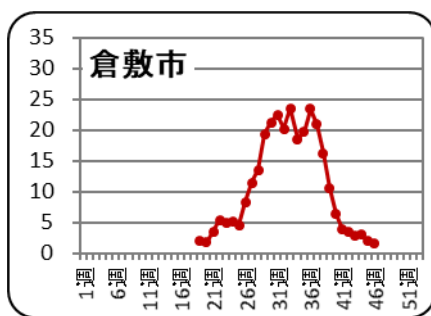
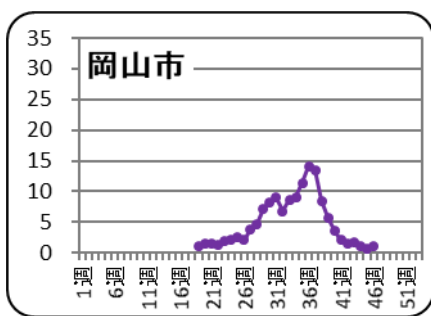


© 岡山県「ももっち」

1. 地域別発生状況

地域名	発生状況 (人)		推移	地域名	発生状況 (人)		推移
岡山県全体	患者数	130	➡	備 中	患者数	23	➡
	定点あたり	1.55			定点あたり	1.92	
岡山市	患者数	25	➡	備 北	患者数	17	➡
	定点あたり	1.14			定点あたり	2.83	
倉敷市	患者数	27	➡	真 庭	患者数	8	➡
	定点あたり	1.69			定点あたり	2.67	
備 前	患者数	14	➡	美 作	患者数	16	➡
	定点あたり	0.93			定点あたり	1.60	

【記号の説明】 前週からの推移
 ↑ : 大幅な増加 ➡ : 増加 ➡ : ほぼ増減なし ➡ : 減少 ↓ : 大幅な減少
 大幅 : 前週比 100%以上の増減 増加・減少 : 前週比 10~100%未満の増減



○全国の発生状況

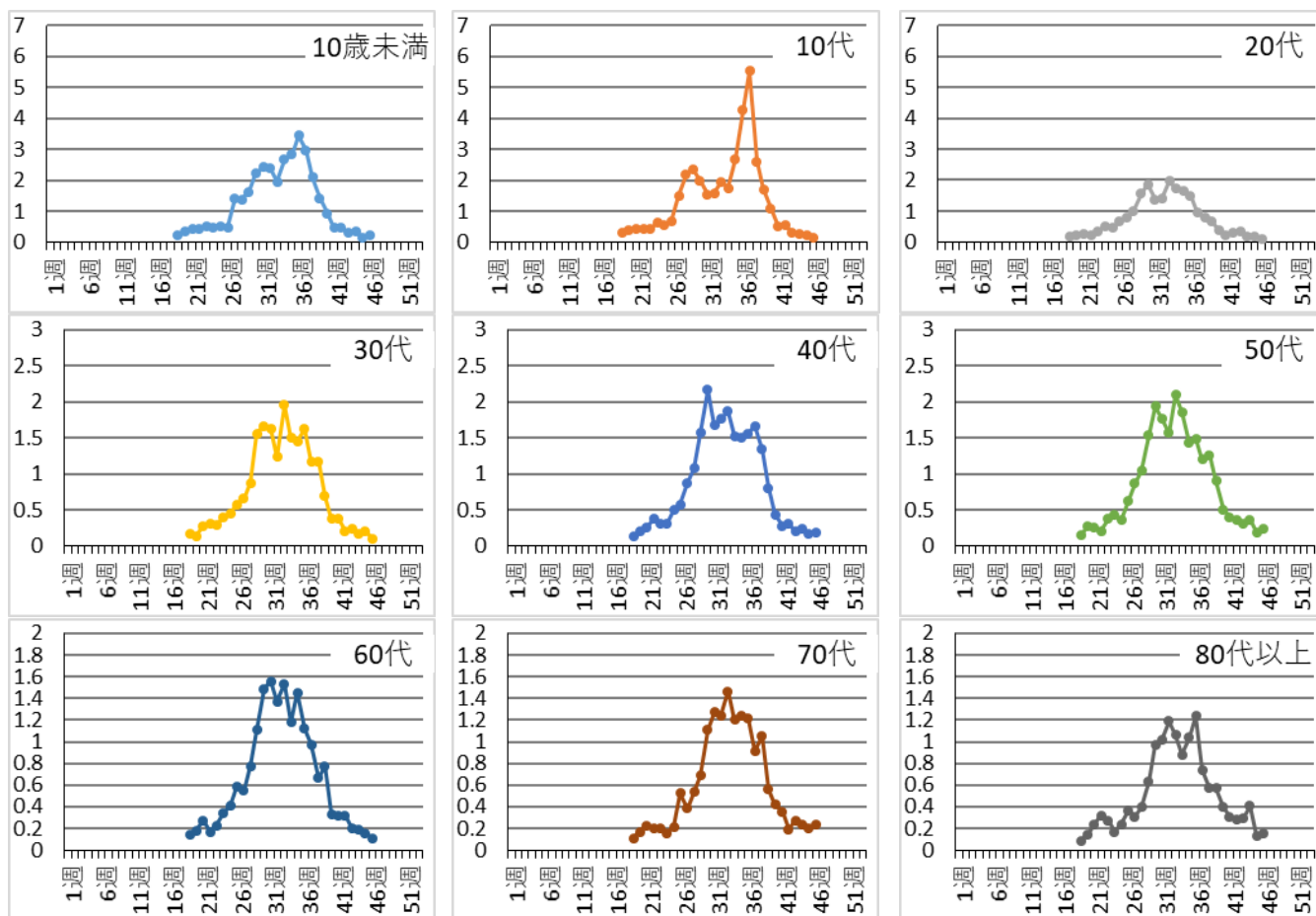
全国集計 2023 年第 46 週速報値 (2023 年 11 月 22 日時点) によると、全国の定点あたり報告数は 1.95 人となり、前週とほぼ同数でした。

2. 年齢別発生状況

○第46週（単位：名）

合計	0-3歳	4-6歳	7-9歳	10-14歳	15-19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
130	5	5	8	7	7	10	9	16	21	9	20	13

○年齢階級別の定点あたり報告数の推移（2023年第19週～）



📌 留意点：年齢階級別の報告数の考え方について

定点医療機関は、小児科定点が内科定点に比べて多く選択されているため、**報告数は小児に偏ります**。一方で、年齢階級別の報告数により、**経時的な流行全体の傾向（トレンド）と水準（レベル）の把握および年齢階級ごとにおける流行の傾向と水準を把握することができます**。

3. 新型コロナウイルス検出状況（ゲノム解析）

ゲノム解析の状況は以下のホームページをご覧ください。

○岡山県の状況

→ [新型コロナウイルスのゲノム解析（岡山県感染症情報センター）](#)

○全国の状況

→ [SARS-CoV-2 変異株について（国立感染症研究所）](#)

4. 入院状況

【入院基幹定点サーベイランス】

基幹定点医療機関(岡山県の基幹定点数:5)から新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による入院患者数等の報告(週単位)を受けて、入院患者の発生動向や重症化の傾向を経時的に把握することを目的としています。2023年9月25日(第39週)から開始しました(インフルエンザについても同様のサーベイランスが既に行われています。)

【県内全体の入院の状況】

県内の医療機関からの報告(厚生労働省の医療機関等情報支援システム(G-MIS))に基づく、入院患者数等の状況です。

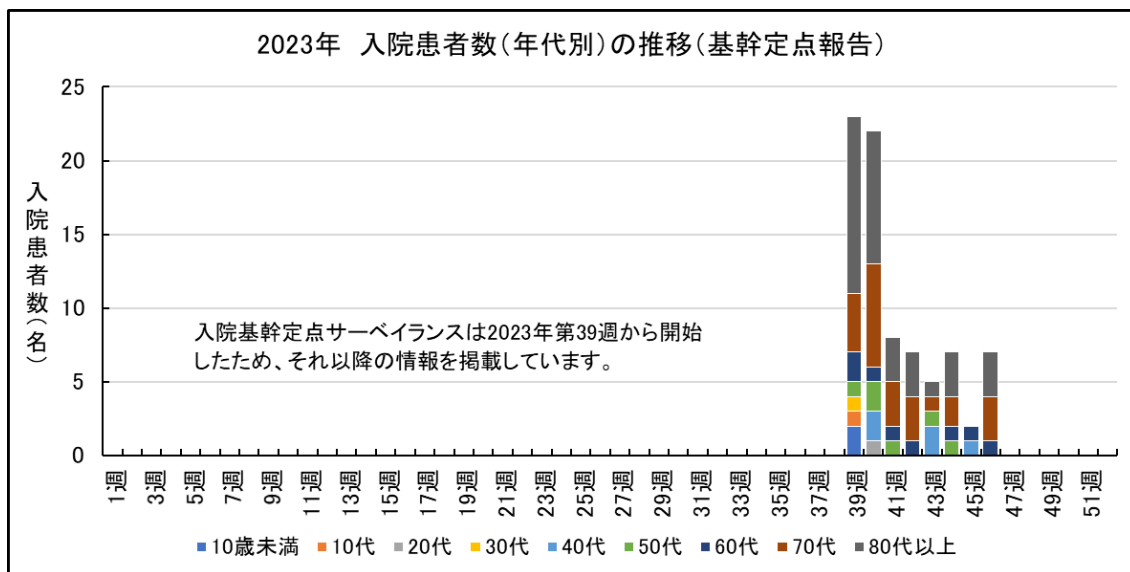
○入院基幹定点サーベイランス(県内基幹定点 5 医療機関による報告)

【第46週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数										1	3	3	7
ICU入室*										1			1
人工呼吸器の利用*												1	1
いずれにも該当せず											3	2	5

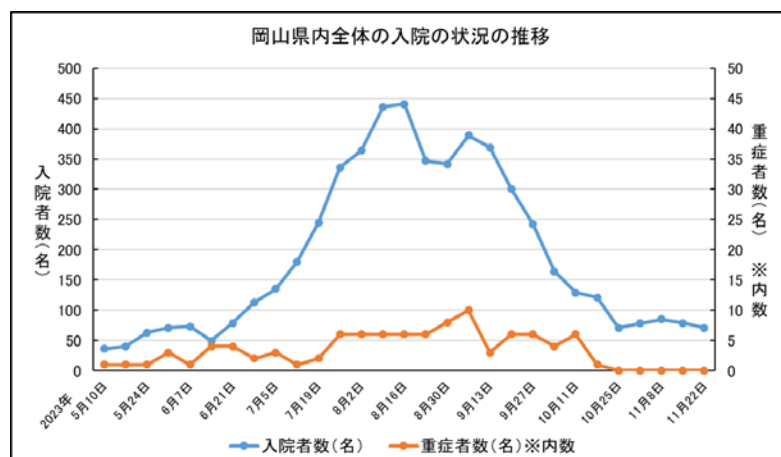
*重複あり

【入院患者数(年代別)の推移】



○県内全体の入院の状況

2023年11月22日時点		
入院報告数		
	入院者数	重症者数
	71名	0名
(参考)		
前週	79名	0名
前々週	85名	0名



風しんの抗体検査(無料)を受けましょう!

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群(CRS)※の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。
県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます \(岡山県健康推進課\)](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#)

をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています(2025年3月31日まで)。以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

※妊娠初期に風しんに罹患すると、出生児に先天性風しん症候群(CRS)と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

3年間延長
されます!

岡山県の2019年4月~2023年8月の風しんのクーポン使用実績(抗体検査)は、34.3%と未だに低い状況です!
CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう!

[風しんの追加的対策について \(厚生労働省\)](#)
[風疹に関する疫学情報 \(国立感染症研究所\)](#)
[“風疹ゼロ”プロジェクト \(日本産婦人科医会\)](#)



© 岡山県「ももっち・うらっち」

今週の注目感染症

☆後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）

●後天性免疫不全症候群(エイズ AIDS)とは

エイズは、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染することによって起こる病気ですが、HIV 感染＝エイズではありません。HIV 感染後、自覚症状のない時期（無症候期）が数年続き、さらに進行すると免疫が低下し、本来なら発症しない病気（日和見感染症）などを発症するようになります。通常数年程度の期間を要するとされていますが、近年発症の早い症例もみられています。免疫が低下することで発症する疾患のうち、代表的な 23 の指標となる疾患が決められており、これらを発症した時点で、エイズ発症と診断されます。現在はさまざまな治療薬があり、きちんと服薬することでエイズ発症を防止することが可能になっています。

●感染経路、予防方法および感染の確認方法

HIV の主な感染経路は、①性行為による感染、②血液を介しての感染（覚せい剤などの依存性薬物の回し打ちによる注射器具の共用）、③母親から赤ちゃんへの母子感染、の 3 つです。

①は、不特定多数との性行為を避ける、性行為においてコンドームを使用することで予防可能です。

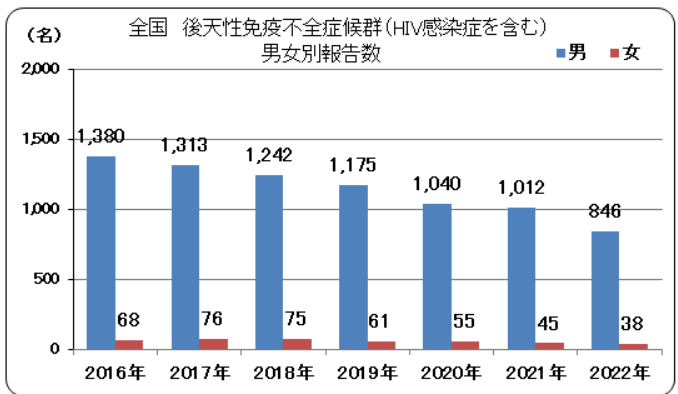
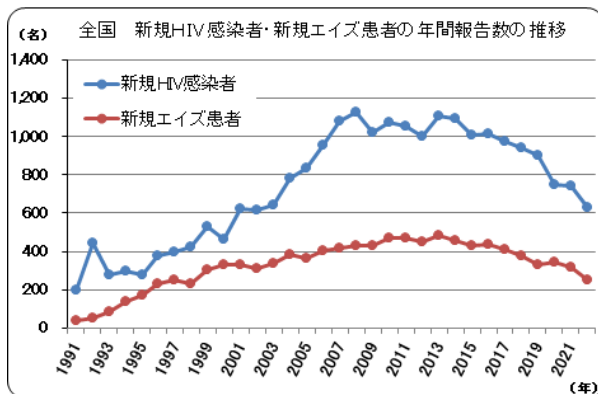
③は、母親が HIV 感染症の治療薬を飲むこと、帝王切開での出産、母乳を与えないことなどで赤ちゃんへの感染を 1 %以下に抑えることができます。（[エイズQ&A（エイズ予防情報ネット）](#)）

HIV に感染すると、通常 6～8 週間経過して、血液から HIV 抗体が検出されます。感染初期にはインフルエンザに似た症状が出ることもありますが、この症状からは HIV に感染しているかどうかを確認することはできません。HIV 検査を受けることで、初めて感染の有無を確認することができます。

●発生状況

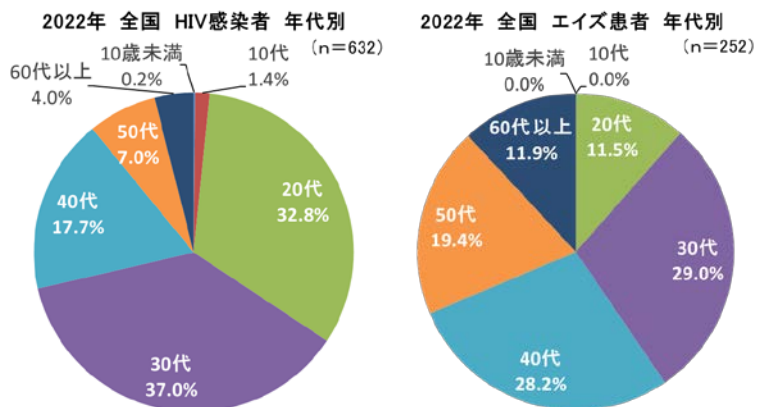
・全国

2022 年エイズ発生動向年報によると、HIV 感染者の新規報告数は 632 件（前年 742 件）、エイズ患者の新規報告数は 252 件（前年 315 件）であり、2021 年より減少し、6 年連続での減少となりました。新規 HIV 感染者と新規エイズ患者報告数の合計について、1,000 件を下回るのは 2003 年以來となりました。ただし、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う検査機会の減少等の影響で検査件数等が減少しており、無症状感染者が十分に把握できていない可能性があります。この中で新規 HIV 感染者と新規エイズ患者が継続して報告されており、注意すべき状況です。HIV 感染者およびエイズ患者のいずれも、日本国籍男性が約 80 % を占めています。



年代別では、HIV 感染者は 20～40 代で多くなっています。またエイズ患者は、20 代以上の各年代に分散していますが、特に 30～40 代で多く、HIV 感染者よりも年代が高くなっています。

新規 HIV 感染者およびエイズ患者の感染経路は、性的接触によるものが約 80%で、HIV 感染者の 70.1%、エイズ患者の 50.4%が同性間性的接触と報告され、男性の同性間性的接触の多い傾向が継続しています。



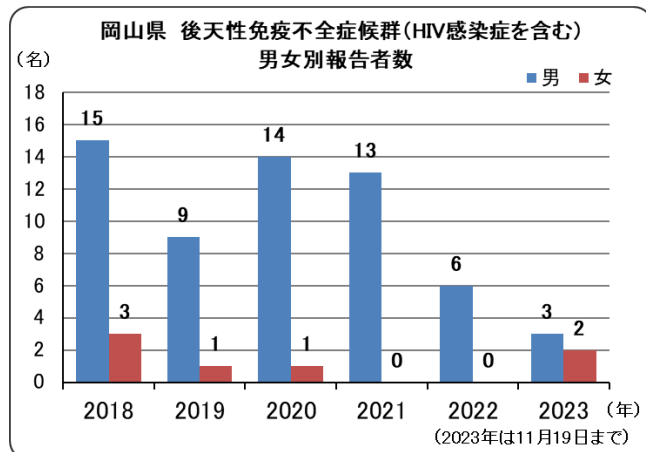
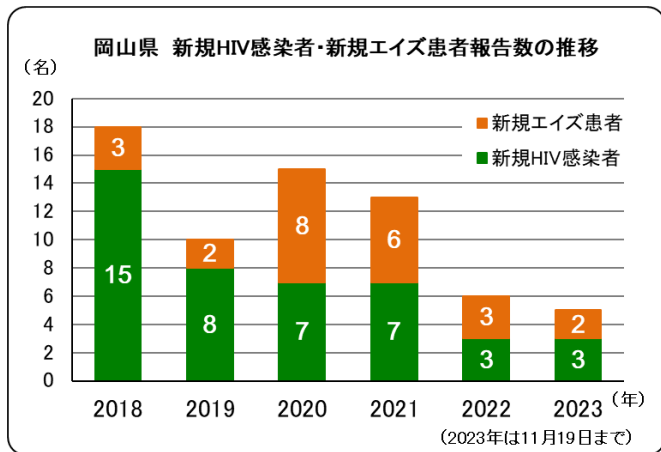
厚生労働省エイズ動向委員会 令和 4(2022)年 エイズ発生動向データより作成

なお、静注薬物使用はエイズ患者で1例、母子感染によるものはHIV感染者で1例となっており、いずれも全体の1%未満にとどまっています。

都道府県別でみると、2022年 HIV 感染者報告数（人口10万人あたり）は、東京都（1.68）、福岡県（0.90）、大阪府（0.83）の順で多くなっています。また、エイズ患者報告数（人口10万人あたり）は、沖縄県（0.61）、熊本県（0.52）、東京都（0.38）の順で多くなっています。（岡山県はいずれも0.16）

・岡山県

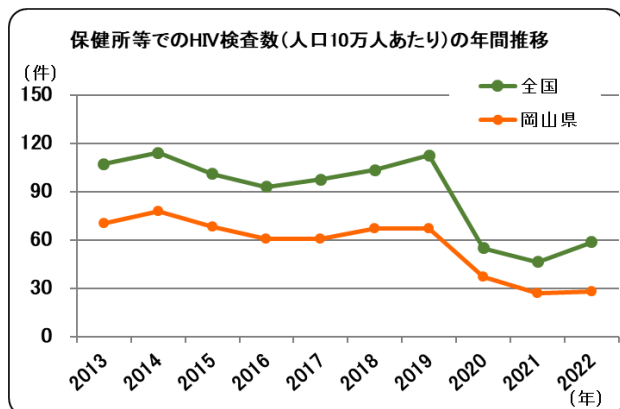
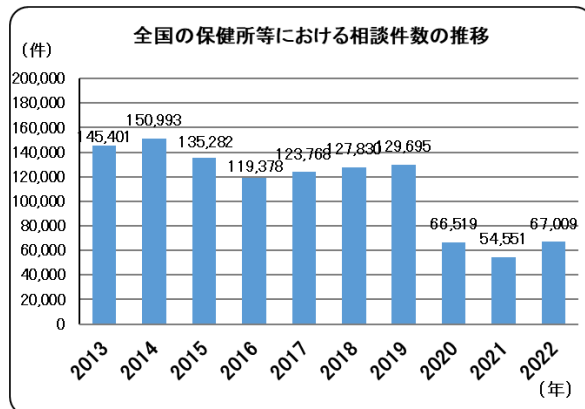
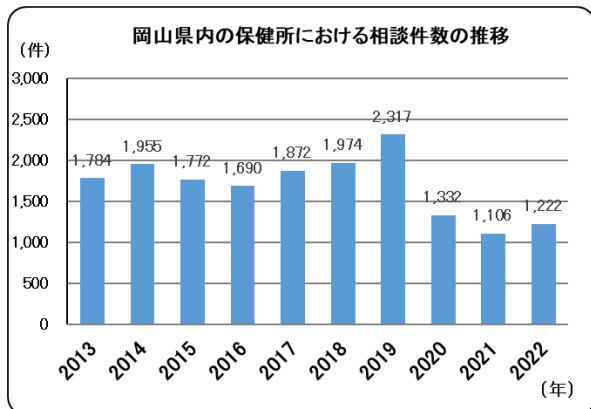
2023年第46週まで（～11/19）に報告されたHIV感染者は3名、エイズ患者は2名で、両者を合わせた新規報告数は5名となっています（2022年第46週までの両者を合わせた新規報告数は4名（HIV感染者1名、エイズ患者3名））。



厚生労働省エイズ動向委員会 令和4(2022)年 エイズ発生動向データに、感染症発生動向調査から2023年のデータを追加して作成

【岡山県内における HIV 抗体検査・相談件数】

岡山県内の保健所における相談件数は、近年は増加傾向にありましたが、2020年に大きく減少し、2021年はさらに減少し、2022年は僅かに増加したものの、2019年以前と比べ、少ない件数に留まっています。全国的にも同様に少なくなっています。また、保健所および拠点病院でのHIV検査数（人口10万人あたり）は、2013年以降ほぼ横ばい状態でしたが、2020年に大きく減少し、以降も少ない検査数に留まっています。先述のとおり新型コロナウイルス感染症の流行に伴う検査機会の減少などの影響が考えられます。



2023年12月1日 世界エイズデー

『あなたが変わればエイズのイメージが変わる。UPDATE HIV!』

(「世界エイズデー」キャンペーンテーマ)



レッドリボン
エイズに対する理解と
支援の象徴

世界エイズデーは、世界レベルでの後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）のまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO（世界保健機関）が1988年に制定したもので、毎年12月1日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。

[API-Net エイズ予防情報ネット「世界エイズデー」特設ページ](#)

厚生労働省エイズ動向委員会のまとめによると、2022年までに報告されたHIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染者数とエイズ患者数の累積報告数（凝固因子製剤による感染例を除く）は、34,000件を超えました。地域的、年齢的にも広がりを見せており、依然として予断を許さない状況にあります。

HIV 感染者 …… 感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、無症候性キャリアあるいはその他として報告されたもの。

エイズ患者 …… 受診時、すでにエイズを発症しており、感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、「AIDS」患者として報告されたもの（※**いきなりエイズ**）。
(既にHIV感染者と報告されている症例がエイズを発症するなど病状に変化を生じた場合は除く。)

※ **「いきなりエイズ」**とは、エイズ発症によって初めてHIVに感染したことが判明することです。
HIV感染の治療の遅れとともに予期せぬ感染の広がりにつながる可能性もあり、対策が必要です。

12月1日の世界エイズデーにあわせて、 岡山県内の保健所・支所では、日時を拡大して検査を実施します。

[世界エイズデーについて（岡山県健康推進課）](#)

[令和5年度 保健所における「世界エイズデー」関連夜間・休日検査 日程一覧](#)

※必ず事前に電話予約をしてください。

岡山県では、平成25年度から全県を挙げて、**HIV感染防止と「いきなりエイズ」防止**のため、「受けやすい検査」「戦略的な普及啓発」「関係者の連携強化」を3つの柱とした「おかやまエイズ感染防止作戦」を実施しています。

[おかやまエイズ感染防止作戦（岡山県健康推進課）](#)

○岡山県保健所・支所、岡山市保健所、倉敷市保健所のエイズ検査（一部、梅毒なども含む）・
性感染症相談は、以下のリンクから詳細をご覧ください。

[岡山県保健所・支所](#)

[岡山市保健所](#)

[倉敷市保健所](#)

○エイズ治療拠点病院のHIV検査（**要予約**、電話相談は行っていません）は、[こちらから](#)

HIV 検査について

HIVに感染しているかどうかは、HIV 検査を受けないと分かりません。HIVに感染してからエイズ発症まで数年程度と、ある一定期間自覚症状がない時期が続くため、気づかないうちに大切な人にうつしてしまう可能性があります。

HIV は、たとえ感染しても早期に発見すれば服薬を続けることで、エイズの発症を防ぐことができます。

早期発見・早期治療がエイズ発症防止や HIV 感染拡大防止にも結びつくことから、保健所（無料・匿名）や拠点病院（一律 1,000 円・即日検査）などでの HIV 検査を積極的に利用することが望まれます。

もし HIV 検査で感染していることが分かった場合でも、県内 10 か所の拠点病院で専門的に治療を受けることができます。

岡山県内での HIV 検査

	検査法	結果時期	正しい検査結果が得られる時期	料金	予約	備考
保健所	血液検査	【通常検査の場合】 ・約1週間後 【即日検査の場合】 ・陰性⇒約1時間後（簡易迅速検査による） ・陽性⇒1週間後（確認のため） * 即日検査を実施している保健所 （備前保健所・美作保健所・岡山市保健所・倉敷市保健所）	感染が疑われる機会があつてから3か月経過後	無料	必須	匿名 梅毒などの性感染症検査も同時に受けられる （梅毒の検査結果は1週間後。ただし、岡山市保健所は即日）
拠点病院		即日 （1～2時間後）				

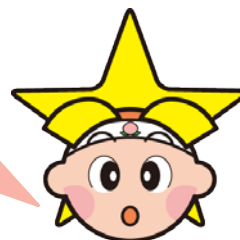
重要！

HIV など、性感染症の検査目的での献血は、絶対に行わないでください！

HIV やその他の性感染症に感染しても、検査ではわからない期間があります。また、献血された血液を検査した結果 HIV が陽性となっても、日本赤十字社は検査結果の通知は行いません。

HIV など、性感染症の検査は、保健所または医療機関で受けてください。

全国・岡山県ともに梅毒患者の報告数が多くなっています。
性感染症に「感染したかも…」と思ったら
早めに検査を受けましょう。



© 岡山県「ももっち」

◆◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎に 気をつけましょう ◆◆

<予 防 方 法>

1. 最も大切なことは、手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。これらを処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、ペーパータオルなどで静かに拭き取りましょう。拭き取った後は、次亜塩素酸ナトリウム（※家庭用塩素系漂白剤でも代用可）で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で1分間以上の熱水処理または次亜塩素酸ナトリウム（※家庭用塩素系漂白剤でも代用可）での消毒が有効です。

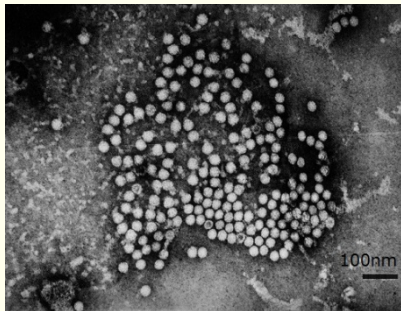
おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、熱水処理または次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を85～90℃で90秒間以上）

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。



© 岡山県「ももっち」



※塩素系漂白剤を使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。
また、アルコールの効果は低いとされています。

[○ノロウイルスに関するQ&A（厚生労働省）](#)

ノロウイルスの電子顕微鏡写真
岡山県環境保健センターウイルス科 撮影



インフルエンザ週報 2023年 第46週〈確定版〉（11月13日～11月19日）

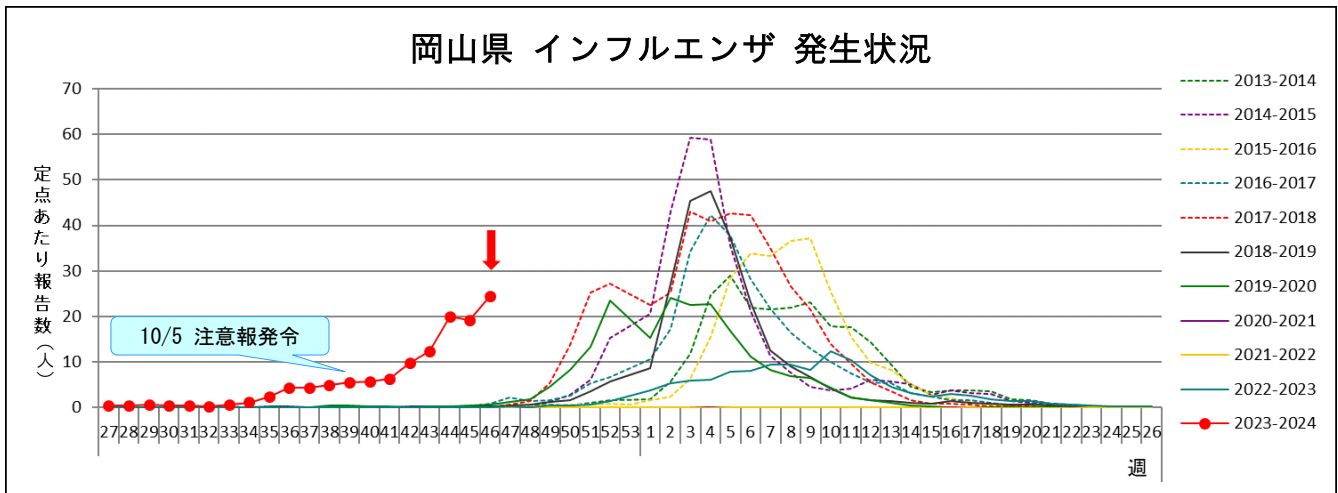
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で2,055名（定点あたり24.46人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が128施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者5名の報告がありました。

【第47週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が106施設でありました（11月20日～22日）。



インフルエンザは、県全体で2,055名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり19.14 → 24.46人）。岡山県は「**インフルエンザ注意報**」を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、倉敷市（39.69人）、備中地域（27.58人）、岡山市（23.59人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

県内の発生状況に注意するとともに、体調管理にも留意し、感染予防に努めましょう。また、予防接種を予定されている方は、早めに済ませましょう。

◆インフルエンザが流行中です。感染に注意しましょう◆

【予防と対策】

- 基本的な感染防止対策
 - ・咳エチケット、手洗い、手指消毒の実施
 - ・室内の適度な湿度の設定、定期的な空気の入換え
 - ・高齢者や基礎疾患のある方などは、人混みを避ける
- 健康的な日常生活
 - ・十分な休養、バランスのとれた食事
- あらかじめの備え
 - ・早めのインフルエンザワクチンの予防接種

【発熱等の症状が出た時は】

- 外出を控え、早めに医療機関を受診する
 - 周りの方へうつさないように「咳エチケット」を！
 - 水分を十分にとり、安静にして休養をとる
- ⇒ 詳細は岡山県ホームページ [『インフルエンザ対策について』](#) をご覧ください。

1. 地域別発生状況

地域名	発生状況 (人)		推移	地域名	発生状況 (人)		推移
岡山県全体	患者数	2,055	↑	備 中	患者数	331	↑
	定点あたり	24.46			定点あたり	27.58	
岡山市	患者数	519	↑	備 北	患者数	90	→
	定点あたり	23.59			定点あたり	15.00	
倉敷市	患者数	635	↑	真 庭	患者数	26	↑
	定点あたり	39.69			定点あたり	8.67	
備 前	患者数	335	→	美 作	患者数	119	↑
	定点あたり	22.33			定点あたり	11.90	

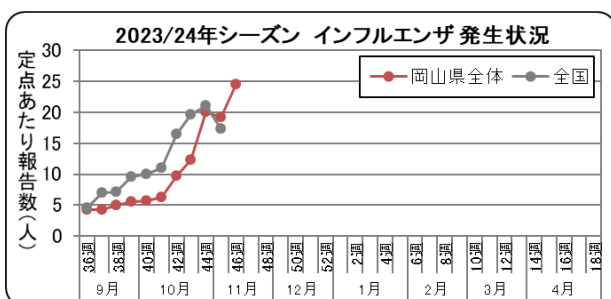
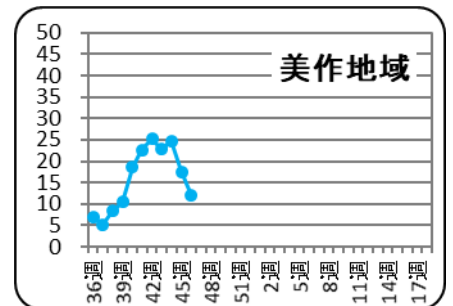
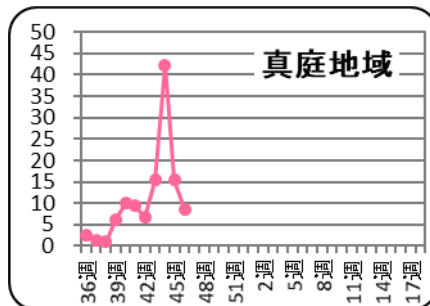
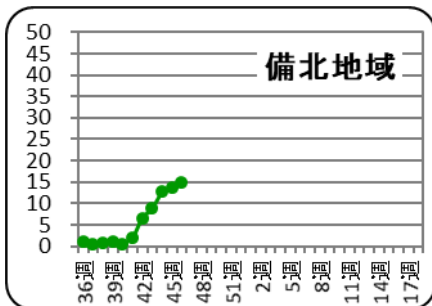
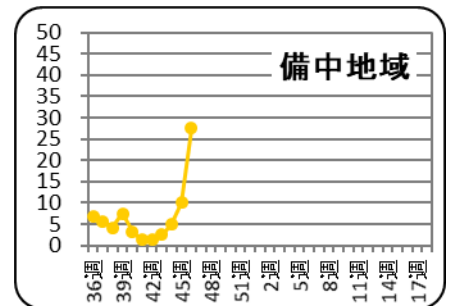
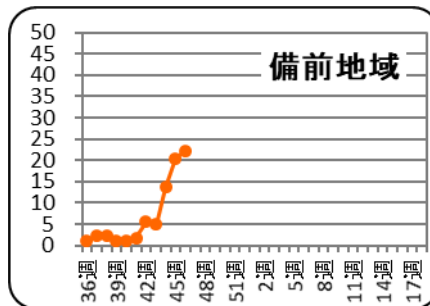
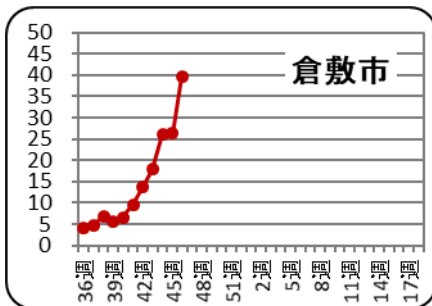
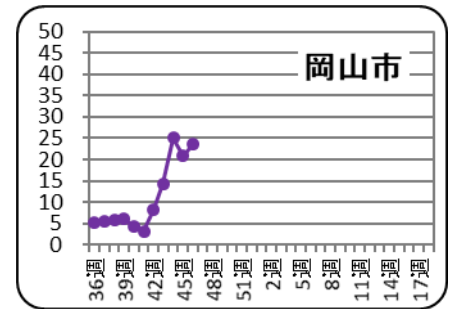
【記号の説明】 前週からの推移 ↑ : 大幅な増加 ↗ : 増加 → : ほぼ増減なし ↘ : 減少 ↓ : 大幅な減少
 大幅 : 前週比 100%以上の増減 増加・減少 : 前週比 10~100%未満の増減

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0 < 10 未満		0

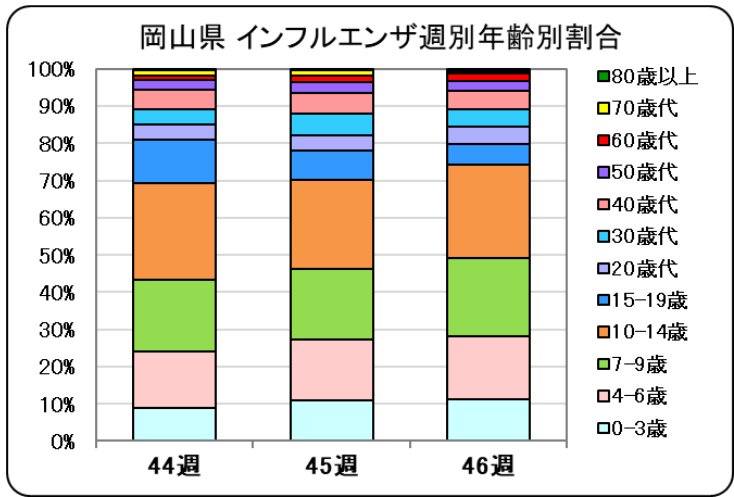
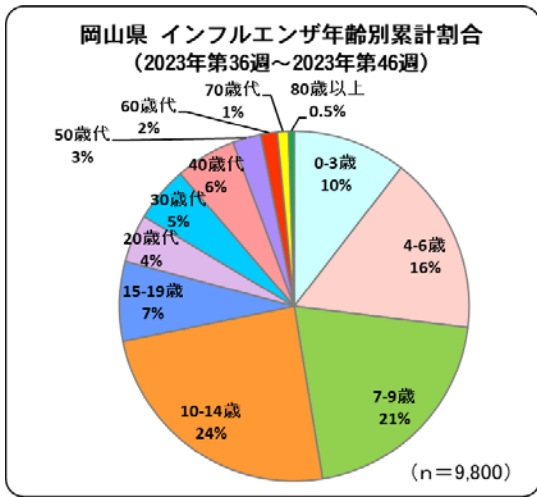


全国集計 2023 年第 45 週 (11/6~11/12) 速報値によると、全国の定点あたり報告数は 17.35 人となりました。

都道府県別では、佐賀県 (36.13 人)、山梨県 (29.78 人)、長野県 (27.78 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。31 都道府県で前週の報告数から減少しました。

[インフルエンザの発生状況について \(厚生労働省\)](#)

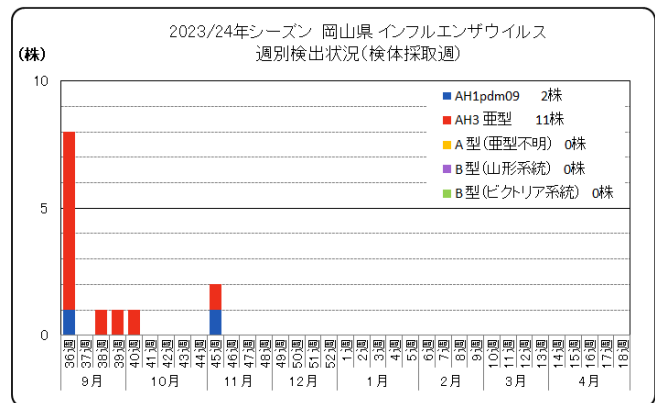
2. 年齢別発生状況



3. インフルエンザウイルス検出状況

2023年第46週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは2株（詳細は下表参照）でした。

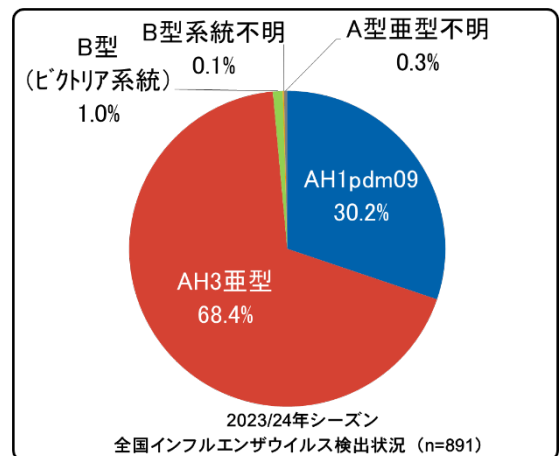
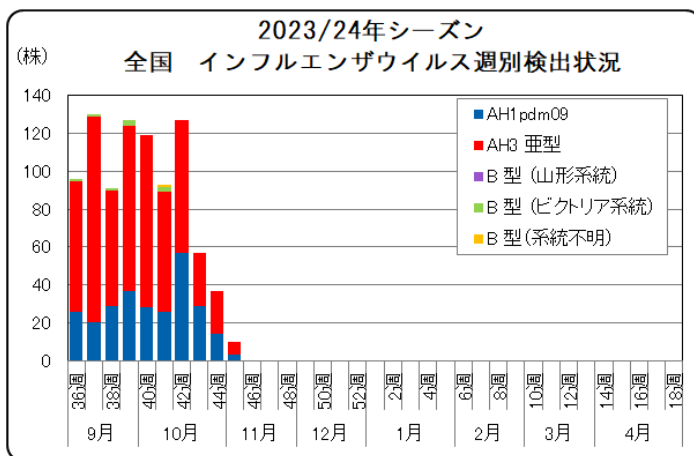
今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは13株で、その内訳は、AH3亜型が11株、AH1pdm09が2株となっています。



ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH1pdm09	2023年第45週(11/6～11/12)	2023/11/8	備中	中学生	男	
インフルエンザウイルスAH3亜型	2023年第45週(11/6～11/12)	2023/11/9	備中	小学生	男	

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3亜型が609株、AH1pdm09が269株、B型（ビクトリア系統）が9株、A型亜型不明が3株、B型系統不明が1株となっています（11月21日現在）。

[インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所）](#)

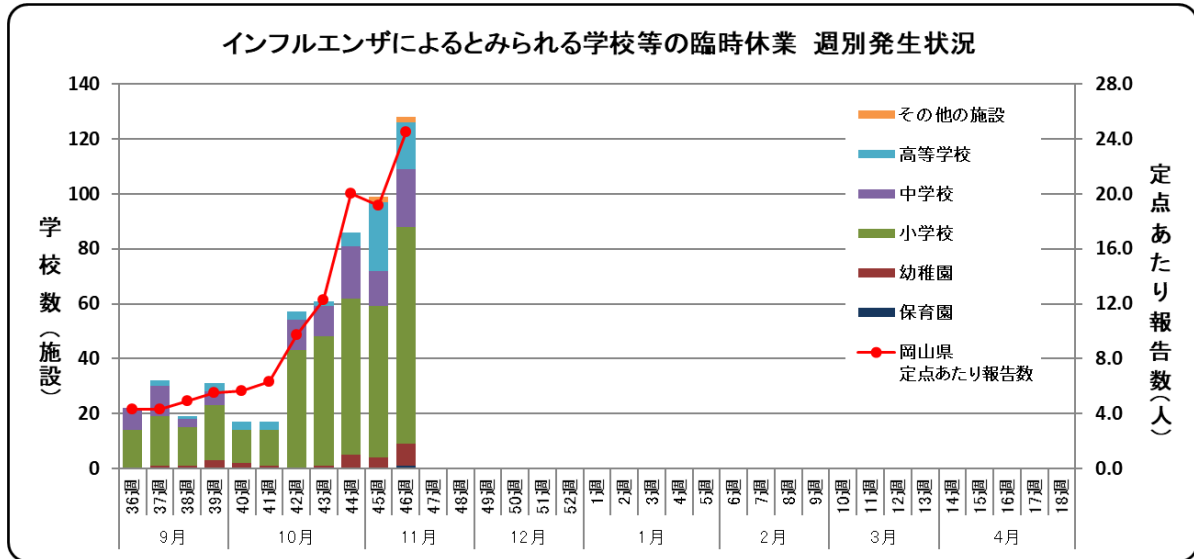


4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、128施設でありました。

【第46週 臨時休業施設数】

▽岡山市	39	▽倉敷市	40	▽津山市	6	▽玉野市	1	▽笠岡市	1
▽井原市	5	▽総社市	9	▽高梁市	1	▽備前市	6	▽瀬戸内市	3
▽赤磐市	3	▽浅口市	7	▽和気町	4	▽里庄町	1	▽矢掛町	1
▽吉備中央町	1								



1) 臨時休業施設数の内訳

第46週:128施設 累計:569施設

	保育園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	1	1	8	26	79	372	21	102	17	64	2	4

2) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

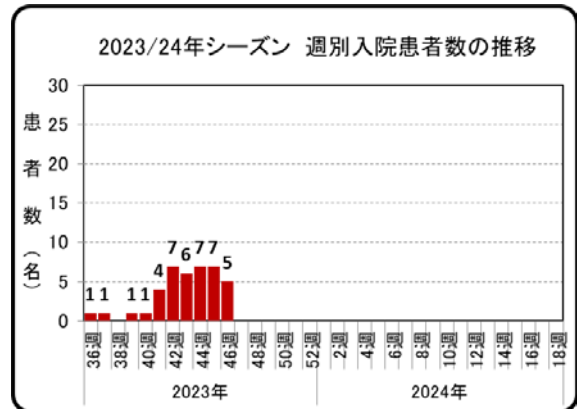
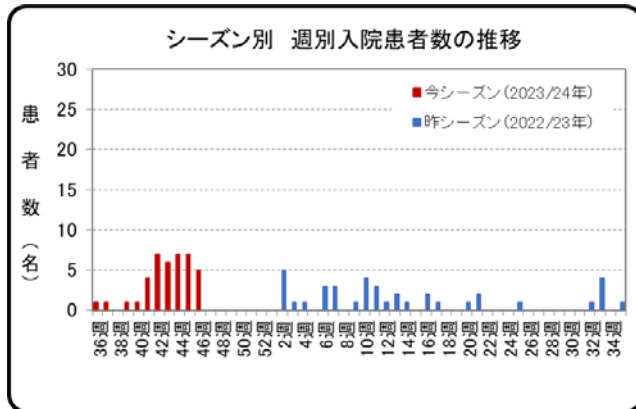
* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	1,927	9,654	1,500	7,582	128	569	4	14	19	132	105	423	R5.9.4
岡山市	551	3,141	434	2,514	39	194	1	1	4	15	34	178	R5.9.4
倉敷市	628	2,345	510	1,857	40	123	0	2	1	8	39	113	R5.9.4
備前地域	246	1,020	187	787	18	53	0	3	5	20	13	30	R5.9.4
備中地域	435	862	308	632	24	52	2	2	4	10	18	40	R5.9.4
備北地域	12	127	11	73	1	10	1	1	0	6	0	3	R5.10.17
真庭地域	0	258	0	213	0	8	0	2	0	4	0	2	R5.10.26
美作地域	55	1,901	50	1,506	6	129	0	3	5	69	1	57	R5.9.4

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、5 名（1～4 歳 2 名、70～79 歳 1 名、80 歳以上 2 名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずウトウトしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 46 週 入院患者報告数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計*
入院患者数		2									1	2	5
ICU 入室 *											1		1
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *													
頭部 MRI 検査(予定含) *													
脳波検査 (予定含) *		1											1
いずれにも該当せず		1										2	3

* 重複あり

【2023 年 9 月 4 日（第 36 週）以降に入院した患者の累計数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計*
入院患者数	1	7	11	1	3			2	2	1	5	7	40
ICU 入室 *					1			1			1		3
人工呼吸器の利用 *								1					1
頭部 CT 検査(予定含) *		1			1						3		5
頭部 MRI 検査(予定含) *		1	2	1	1								5
脳波検査 (予定含) *		1	2										3
いずれにも該当せず	1	5	8		1			1	2	1	1	7	27

* 重複あり

保健所別報告患者数 2023年 46週(定点把握)

(2023/11/13~2023/11/19)

2023年11月23日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2055	24.46	519	23.59	635	39.69	335	22.33	331	27.58	90	15.00	26	8.67	119	11.90
RSウイルス感染症	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	165	3.06	58	4.14	41	3.73	16	1.60	24	3.43	5	1.25	-	-	21	3.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	90	1.67	35	2.50	21	1.91	-	-	28	4.00	-	-	4	2.00	2	0.33
感染性胃腸炎	238	4.41	98	7.00	23	2.09	45	4.50	17	2.43	25	6.25	5	2.50	25	4.17
水痘	4	0.07	1	0.07	-	-	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	44	0.81	14	1.00	14	1.27	-	-	9	1.29	-	-	-	-	7	1.17
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	8	0.15	5	0.36	1	0.09	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	0.06	1	0.07	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	4	0.07	3	0.21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	0.67	3	0.60	2	0.50	2	2.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2023年 46週(発生レベル設定疾患)

(2023/11/13~2023/11/19)

2023年11月23日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2055	24.46	519	23.59	635	39.69	335	22.33	331	27.58	90	15.00	26	8.67	119	11.90
咽頭結膜熱	165	3.06	58	4.14	41	3.73	16	1.60	24	3.43	5	1.25	-	-	21	3.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	90	1.67	35	2.50	21	1.91	-	-	28	4.00	-	-	4	2.00	2	0.33
感染性胃腸炎	238	4.41	98	7.00	23	2.09	45	4.50	17	2.43	25	6.25	5	2.50	25	4.17
水痘	4	0.07	1	0.07	-	-	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	44	0.81	14	1.00	14	1.27	-	-	9	1.29	-	-	-	-	7	1.17
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	0.06	1	0.07	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	4	0.07	3	0.21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	0.67	3	0.60	2	0.50	2	2.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2023年 第46週 2023/11/13~2023/11/19)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~	
インフルエンザ	2055	6	12	49	67	94	95	132	125	144	148	135	516	119	91	96	107	53	40	14	12

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~	
RSウイルス感染症	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	165	1	9	28	28	29	19	17	12	7	5	2	5	-	3
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	90	-	-	4	5	5	14	6	16	11	14	3	12	-	-
感染性胃腸炎	238	-	11	26	32	17	33	24	18	14	9	8	20	3	23
水痘	4	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	1	-	-
手足口病	44	-	-	10	13	6	9	5	-	-	-	-	1	-	-
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	8	-	2	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	4	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	8	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	2	1	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

保健所別

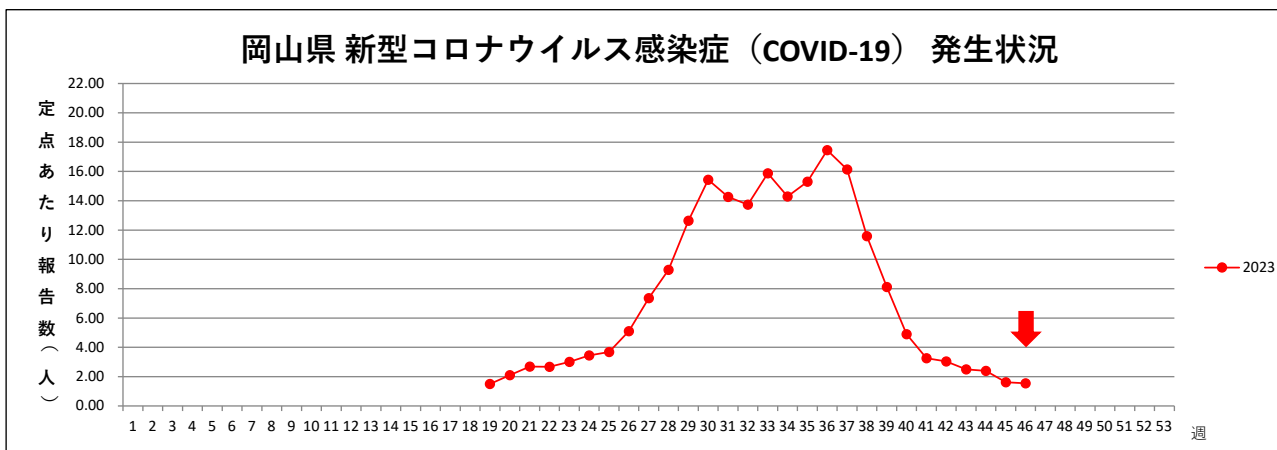
疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	130	1.55	25	1.14	27	1.69	14	0.93	23	1.92	17	2.83	8	2.67	16	1.60

(- : 0 or 0.00)

年齢別

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	130	2	-	2	-	1	1	2	2	-	3	5	7	7	10	9	16	21	9	20	13

(- : 0)



全数把握 感染症患者発生状況

2023年 46週

分類	疾病名	2023		2022	疾病名	2023			2022			
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-								
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	6	186	246	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-								
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	3	99	66
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-				
四類	E型肝炎	-	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	-
	エキノкокクス症	-	-	-	エムポックス ※2	-	1	-	黄熱	-	-	-
	オウム病	-	1	1	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-
	キャサナル森林病	-	-	-	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-
	コクシジオイデス症	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	4	4
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	3	4
	デング熱	-	-	3	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	-	13	9	日本脳炎	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	2
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	44	47
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-				
五類	アメーバ赤痢	-	8	10	ウイルス性肝炎	-	4	1	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ※2	-	22	23
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	1	-	急性脳炎	-	10	10	クリプトスポリジウム症	-	-	-
	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	7	5	後天性免疫不全症候群	1	5	6
	ジアルジア症	-	1	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	9	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-
	侵襲性肺炎球菌感染症	-	26	22	水痘(入院例に限る。)	-	5	4	先天性風しん症候群	-	-	-
	梅毒	3	257	197	播種性クリプトкокクス症	-	2	3	破傷風	-	3	3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	2	1	百日咳	-	21	17
	風しん	-	-	1	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-
※1	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	-	85,871	392,782								

※1 新型インフルエンザ等感染症として2023年5月7日までに届出された患者数

※2 2023年5月26日付けで、以下の疾病の名称が変更になりました。

「サル痘」 → 「エムポックス」

「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」 → 「カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症」

